

令和5（2023）年度～令和9（2027）年度

【羽衣学園 第IV期中期計画】

建学の精神：

「愛真教育を基盤とした、自由・自主・自律・個性尊重の人間教育」

学園全体計画テーマ：

「豊かな教養と人間性を育てる学園」

これからの時代は、ますます情報化・国際化が進み、多様な人々と共生・協働していくことが求められています。その時、説得力を持って人の心を動かすのは、主体的な学びにより培われた、豊かな教養と人間性です。羽衣学園では、学園中期計画の策定にあたり、教職員一人ひとりが研鑽により教養を深め、円満な和を以て人と接する人間性を磨きます。そして、自らを範として、未来を担う若者たちにそのような教育を行い、人の心を動かし、これからの国際社会に対応できる、多様な人々とともに生きていくことができる人材を育てる学園を目指します。

【羽衣国際大学】

～ 大学創立 30 周年に向けて：

「自由・自主・自律・個性尊重の人間教育」と地域の国際・学術・創造拠点の確立へ～

I. 教育研究改革：地域の国際・学術・創造拠点へ

1 学部学科再編

1) 定員確保・収容定員の増加

2) 情報系新学科と新コースの設置

上記 1) 2) のスケジュール

2023 年 4 月～（2024 年度入試に向けて）：

①人間生活学部から現代社会学部への定員移動（総定員は 293 名）

食物栄養学科 70⇒60 現代社会学科 106⇒113

人間生活学科 55 放送・メディア映像学科 60⇒65（教室整備と教員+1）

②人間生活学科「こども教育コース」新設準備開始

* 小中高（特に小学校）の教員不足が続く。

* 家庭科教員免許 I 種取得（主）

+ 副専攻：小学校 II 種または幼稚園教諭 取得可能

（II 種は卒業後 I 種に更新可能）

③食物栄養学科教員数の見直しの検討

2024 年 6 月～10 月：認証評価受審

（2025 年 4 月～ 次年度 新学科申請準備）

2026 年 3 月（2027 年度入試に向けて）：

現代社会学部 2 学科の定員増の申請+新学科の申請

（現代社会学科：111⇒120 放送・メディア映像学科 65⇒70

情報系新学科 60）

食物栄養学科：60 人間生活学科：55 合計：365 名

2 学生募集・広報力の強化

1) 広報力の強化

2) 「質の高い学生」の募集強化

3) 多国籍・質の高い留学生の募集強化

4) 学生募集力の強化（食物栄養学科）

①入試における受験対象の拡大

理科を履修していない生徒の受験機会を確保。例えば「指定校推薦で条件として
いる生物基礎や化学基礎の受講」の緩和を検討。

②60 名全員管理栄養士課程とし、次の 4 コースを設置。

* すべてのコースで「栄養教諭」取得可能。

- (1) 医療栄養コース：病院・福祉施設・老人保健施設・給食会社・保健所（公務員）への就職を目指す。
 - (2) フードデザイン・食育コース：栄養教諭＋家庭科教諭（中高）取得可能。食品メーカー、サービス業、ドラッグストアへの就職を想定。実践重視の講義内容。農芸高校、家庭科、商業高校からの入学者確保。
 - (3) スポーツ栄養コース：スポーツ栄養士。ドラッグストア、食品会社への就職。
 - (4) グローバル栄養コース：海外研修への参加。語学や食文化の学び。座学より経験重視。
- 5) 学生募集力の強化（人間生活学科）
 専門学校で学べる知識・技術×大学での幅広い学びによるより良い就職先の確保。「こども教育コース」新設を含む教職人材の育成。
- 3 研究・教育力の強化
- 1) 大学院の設置
 （総合科学研究科（仮称）：すべての学部学科で一つの研究科、複数の専攻を設置。）
 2026 年度設置準備開始（2027 年度設置申請、2028 年度開設）。
 - 2) 科学研究費獲得支援制度の整備
 - ① 教員対象の研究活動・論文執筆活動研修
 - ② 学部（または学科）ごとに、科研申請件数の KPI を定める
 - ③ 申請書の学部・学科での「査読」
 - 3) 個人研究費の増額（科研費インセンティブとの併用）
 - 4) サバティカル制度の実質化
 - 5) 学位取得支援制度の整備
 - 6) 受託研究・寄付講座の受入促進
 - ① 収益が見込める研究分野（食物・情報・映像系等）についての調査実施
 - ② 事務局体制の強化（修士号以上保持者の雇用、URA：リサーチ・アドミニストレーター）の導入、URA 室の整備等）
- 4 基盤力養成の強化
- 1) 言語運用能力の向上（主として日本語・英語）
 - 2) リベラルアーツ教育の強化
 - 3) データサイエンス系科目の履修促進【MDASH】
 - 4) 交換留学の促進
 - ・2022 年度を基準として、送り出し交換留学生数を年 1 割増とし、2026 年度には 2022 年度比約 1.5 倍増。
 - ・交換留学受入数、派遣数を 20～30 名に増やす。
 - 5) 国際・学内外の学修・交流でのオンライン・VR の活用促進

5 学びの特色化の徹底と進路決定力の強化

1) 地域連携としての公務員・教職養成プログラムの強化（夢支援プログラム）

- ①夢支援・公務員養成プログラム継続
- ②教職養成支援プログラムの検討

2) DX 推進による学習効果の向上

教務支援課等への DX 推進スタッフの配置。

授業・プロジェクトにおける DX 推進スタッフを教務支援課に配置することで、カリキュラム等との連携を図る。

3) 105 分授業（半期 13 週＋試験週）または 100 分授業導入による学外活動等の促進

105 分授業（15 週×90 分＝1350 分　13 週×105 分＝1365 分）

- (案 1) ① 8：45～10：20 ②10：30～12：25 ③13：15～15：00
④15：10～16：55 ⑤17：00～18：45

- (案 2) ① 9：00～10：45 ②10：55～12：40 ③13：30～15：15
④15：25～17：10 ⑤17：20～19：05

- (案 3) ① 8：40～10：15 ②10：25～12：15 ③13：05～14：45
④14：55～16：40 ⑤16：50～18：30

100 分授業（半期 14 週＋試験週）（14 週×100 分＝1400 分）

- (案 1) ① 8：40～10：10 ②10：20～12：00 ③12：50～14：30
④14：40～16：10 ⑤16：20～18：00

- (案 2) ① 9：00～10：40 ②10：50～12：30 ③13：50～15：30
④15：40～17：10 ⑤17：20～19：00

4) 日本語教員養成カリキュラムの策定

5) 英語による開講科目の拡充

6) SDG s 副専攻の設置（全学共通）

7) 資格課程の整理・見直し

履修者数の少ない医療管理秘書士、リクリエーションインストラクター等の見直し

8) 国際交流における連携自治体との協力の検討（例：堺市アセアンウィーク）

9) キャリア系科目履修の早期化の検討

10) グローバル・インターンシップ導入の検討

II. 学生支援改革：自主的な学びの確立へ

1 学修・学生生活支援

1) ラーニングコモンズ（バリアフリー：図書館、地域の交流拠点としての中ホール、大学院研究室等を含む）の整備

2) 緊急支援給付金制度の設置

3) 計画的な施設改修

- ・1号館車椅子用リフト設置、トイレ、校舎内部の壁塗替え

- ・情報教室の拡充、3号館4階等。
 - ・受水槽・高架水槽の更新。
 - ・空調の整備（スポーツホール、クラブハウス含む）。
 - ・構内バリアフリー化。
 - ・LED化
 - ・倉庫の増設（大学祭関係）。
- 4) 総務課から独立した施設設備管理部門の設置の検討。
 - 5) BYOD（Bring Your Own Device）の推進（全教室でPCを使える環境整備）
 - 6) 学習成果の可視化推進（アセスメンターの活用促進等）
- 2 留学生支援
 - 1) 国際学生寮（宿泊施設・日本人学生と留学生対象）の新設
 - 2) 日本語学習プログラムの拡充（留学生）
 - 3 強化クラブ支援
 - 1) 学業成績×競技成績による特待生制度の策定
 - ・学業と競技活動を通して、鍛錬する習慣を身につける。
 - 2) 人材育成プログラムの策定実施
 - ・強化クラブ所属学生の文武不岐による人材育成モデルをつくる。
 - 3) 強化クラブブランド確立
 - ・学生募集でいわゆる一本釣りではないスポーツ推薦希望者を増やし志願倍率を上げる。

III. 管理運営改革：「働き甲斐のある大学」へ

- 1 財務運営の健全化
 - 1) 施設整備引当特定資産繰入の確保
 - 2) 経費の見直し
 - ①ペーパーレス化による印刷製本費の削減
 - ・教職員に1人1台のタブレット配布、アドビソフトの必要に応じた配布の検討。
 - ②紙ベースの広報媒体の見直し など。
 - 3) 奨学金制度の再構築
 - ・受給機会の拡大：Be the One 特別給付奨学金の一人あたり受給額を半減し、受給者を倍増させる。
 - ・現行諸制度の整理の検討（大学規模に比して奨学金の種類が多く、事務が煩雑）
 - ・学納金項目の見直しの検討（授業料・施設費・教育充実費）
 - 4) 留学生支援制度の再構築
 - 5) 収益事業拡大の検討（大学発の製品の販売など。）
 - 6) 研究を基盤とした収益事業の検討

- 2 人事管理制度における公平性・透明性・継続性の確保
 - 1) 教職員採用・再任・昇任昇格制度の再構築（専任職員定数の確立と3年嘱託制度の導入＝常勤・非常勤・アウトソーシングの数的バランス）
 - 2) 給与体系の見直し
 - 3) 週休2日制の実施（職員）
 - 4) 定年年齢の延長
- 3 管理運営の効率化
 - 1) 次世代中核職員の育成
 - ・30代、40代を中心に責任をもって業務に取り組める人材育成
 - ・実力のある若年層に対する機会を増やす
 - 2) 職員の各種研修参加支援
 - ・職位別研修の実施（課長級、主任級、主事級）
 - ・モデルケースの設定
 - 3) 管理運営のDX化推進（ペーパーレス化、電子決裁等含む）
 - 4) 諸会議体の効率的運営
 - 5) BCP・DRを目的とした学内サーバのクラウド化（災害時の対策）
 - ・BCP: 事業継続計画（Business Continuity Plan）
 - ・DR: 災害復旧（Disaster Recovery）
 - 6) 情報セキュリティ対策の整備：インシデント対応体制の整備（CSIRT：Computer Security Incident Response Team の設置）
- 4 自己点検評価・内部質保証
 - 1) 中期計画と連動した年度計画の策定
 - 2) 恒常的な自己点検評価（少なくとも2年に1回）
 - 3) 外部評価委員会の設置と評価（学外有識者会議の実質化）

【羽衣学園中学校・高等学校】

I. 教学内容の充実

1 生徒指導の充実

- 1) 将来の自立に向けた基本的生活習慣の確立
- 2) マナー意識、規範意識を育む教育の推進
- 3) 挨拶、コミュニケーション能力向上の取り組み

2 学習指導の充実

- 1) 新カリキュラムの教学内容の研究
- 2) 授業アンケートを活用し、授業の質を高める為の教員のスキルアップ
- 3) 基礎学力の定着から論理的に物事を考え判断する力を育む指導の充実
- 4) 探究学習を通じた応用力の育成
- 5) 研究発表大会等の参加啓発とサポート環境づくり

3 進路指導の充実

- 1) 生徒の目標達成に向けた丁寧な進路指導の充実
- 2) 四年制大学進学者数を増やし進学実績の向上
- 3) 進路目標に向けての組織的・継続的な取り組みの拡充
- 4) 大学入試研究会・羽衣講座等の拡充
- 5) 進路目標に向けての組織的・継続的な取り組みの拡充

4 行事の充実

- 1) 体育祭の外部室内施設での実施の企画実行
- 2) 生徒自らが意欲的に取り組む行事の拡充
- 3) 外部団体とのコラボ企画の研究

5 情操教育の充実

- 1) 文化行事や講演会を通じた情操教育の充実

6 教職員の資質向上

- 1) 挨拶やコミュニケーション能力を高める
- 2) 各教科での研究授業の実施と拡充
- 3) 各種研修会の参加啓発、校内での実施

7 主権者教育・消費者教育・金融教育の充実

- 1) 主権者教育・消費者教育・金融教育の充実

II. グローバル人材の育成

1 英語資格試験取得の促進

- 1) オンライン英会話の活用の充実
- 2) 検定対策講座の拡充
- 3) 各種検定の研究と精査

- 2 海外での活動プログラムの拡充
 - 1) 高校海外修学旅行の実施と新方面の開拓
 - 2) 短期留学プログラムの研究と拡充
 - 3) 交換留学など長期留学プログラムの拡充
- 3 ダイバーシティ理解教育の拡充
 - 1) ダイバーシティを理解し、その中で活躍していける人材の育成
- 4 国内・校内を含めたグローバル体験プログラムの拡充
 - 1) 校内グローバル体験プログラムの拡充
 - 2) 海外生徒との交流機会の拡充
 - 3) 国内プログラムの情報提供と参加の奨励
- 5 海外大学進学者を増やす取組の拡充
 - 1) 国際社会における日本の状況認識に向けての適切な情報の提供と生徒保護者への海外進学的重要性の認識を高める
 - 2) 台湾・マレーシアを軸に海外進学に向けての説明会等の情報提供機会の設定
 - 3) 海外大学での研修や視察ツアーの企画・実行

III. DX戦略の推進

- 1 教学関連
 - 1) 個人向けモバイルの活用法の研究
 - 2) 学力、探究心向上に向けた効果的な使用法の研究
 - 3) 生徒・保護者・教職員の連携ツールの研究と拡充
 - 4) プログラミング教育の取り組みの拡充
- 2 行事関連
 - 1) オンライン授業についての研究と拡充
 - 2) 行事の動画配信や記録の拡充
 - 3) 各教室への情報発信・共有方法の研究
- 3 職務関連
 - 1) 教職員の業務の効率化に向けて
 - 2) 会議での活用の研究と実行
- 4 施設関連
 - 1) より良いICT環境の研究と改善
 - 2) 教室、教職員のPC環境等の保守と整備
 - 3) 情報教室等を含めた今後の全体構想の策定
- 5 学園としてのトータルデザイン策定
 - 1) 生徒・保護者・教職員が連携して活用できるシステムの構築
 - 2) 施設の今後のトータルデザインと保守整備

IV. 環境の整備

1 教育環境整備

- 1) 地域、生徒、保護者、教職員など誰からも信頼される魅力ある学園づくりの推進
- 2) 生徒保護者のニーズに合った教育環境整備
- 3) いじめのない学校づくりの推進
- 4) 部活動の活性化
- 5) 制服・制服規定なども含めた校則の検討と見直し
- 6) 建学の精神に基づき、生徒、保護者の将来の幸せに繋がられる教育環境の追求
- 7) 放課後の学習サポートの拡充

2 施設環境整備

- 1) 生徒保護者のニーズに合った施設環境整備
- 2) 施設補修・新規工事の年次計画の策定
- 3) 食堂棟の新設、特別棟の改修リニューアル工事、講堂の耐震リニューアル工事の計画の実行
- 4) グラウンドやテニスコートの人工芝化の検討
- 5) 自転車置き場の屋根の設置の検討

3 生徒のメンタルケアの拡充

- 1) 生徒相談室・カウンセリングの拡充
- 2) 生徒の居場所づくりの推進
- 3) 教員の対応力の資質向上の取り組み

4 学校評価制度の拡充

- 1) 現在実施しているアンケート方法の検証と見直し
- 2) アンケート実施後の評価制度の検証と見直し

5 その他

- 1) 災害時用品の備蓄

V. 経営基盤の確立

1 人事管理について

- 1) 教職員の採用・人事配置・定数管理・人件費率等の適正な管理

2 財務運営について

- 1) 適正な予算執行から健全な財務状況の確立
- 2) 経費節減
- 3) 人件費率の抑制
- 4) 施設関係経費の精査と計画的な施設整備計画

3 生徒募集について

- 1) 計画的な募集生徒数の策定
- 2) 生徒募集活動の拡充と目標入学生徒数の獲得
- 3) 生徒募集に繋がる学園の魅力作りと掘り起こし

- 4) 「VIVA 羽衣」等生徒が参画できる企画の拡充
- 4 組織運営について
 - 1) 同一法人内での中・高・大の連携の強化
 - 2) 属人化からの脱却に向けた組織づくり
 - 3) 学年、各部門等の組織力を高める取り組み
 - 4) 規程などの整備、見直し
- 5 計画・施策の実行力向上について
 - 1) 学園が取り組むべき最重要課題の精査
 - 2) 経営計画の実行力向上への取り組み

VI. 労働環境の整備

- 1 健全な労働環境の整備
 - 1) 「働き方改革」に沿って教職員が安全・快適に勤務できるようにより良い労働条件を追究
 - 2) 一日研修日検討委員会の立ち上げと一日研修日の実行
 - 3) 有給休暇取得率の上昇
 - 4) 安全衛生委員会の実施
 - 5) D X の有効活用を推進
 - 6) 労使双方の代表による労働条件の協議の推進
 - 7) 会議の回数、時間の削減に向けた取り組み
 - 8) 長時間労働を良しとしない職場風土作り

VII. その他

- 1 創立 100 周年に向けて
 - 1) 学園の創立 100 周年記念事業に向けて取り組みを強化する。
- 2 S D G s の取り組み
 - 1) 学園を上げて S D G s の取り組みの強化

【羽衣学園法人本部】

I. 学園創立 100 周年記念事業

1 記念事業運営

- 1) 予算管理・寄付金管理
- 2) 100 周年記念事業委員会・実行管理委員会による各担当チーム（式典運営・広報企画・イベント企画など）の進捗管理と総括

II. 三位一体的経営改革（ヒト・モノ・カネ）

1 法人内職員全体（大学・中高・法人本部）での人事制度改革【ヒト】

- 1) 採用・異動・給与・福利厚生
 - ・勤務条件その他の差異の抽出と格差の是正
 - ・各部門間の人事交流に向けた準備
 - ・将来的な事務職員の就業規則・給与表・職員公募等の統一に向けた準備
 - ・持続可能性のある人事体制の構築
- 2) 各種研修制度の拡充
 - ・階層別研修、学校合同研修
- 3) 分散している業務の一元化
 - ・給与支給業務
 - ・私学共済関連業務
 - ・人事管理（人事記録）業務

2 施設設備整備計画【モノ】

- 1) 政策に結びついた施設設備拡充と計画的補修・改修
- 2) 各部門別施設設備整備 5 年基本計画の見直し

3 中期財務計画【カネ】

- 1) 財務シミュレーションの定期的見直し
- 2) 目的予算制度（政策別予算制度）・執行実績検証制度・割当予算制度（教研経費支出・管理経費支出・設備関係支出の総額が学生生徒等納付金収入の増減と連動する仕組み）の研究と構築
- 3) 金融資産の運用

III. ガバナンス改革

1 私立学校法改正（令和 7 年度施行）対応

- 1) 組織整備（評議員会・理事選任機関）・各種規程改正・各種準備作業とアフターフォロー

- 2) 羽衣学園ガバナンスコード第二版作成
- 2 内部監査
 - 1) 自部門の自己点検と部門間ピアレビューによる内部監査の実施（＝相互理解の浸透）

IV. 地域社会への貢献

- 1 防災拠点としての地域貢献
 - 1) 災害用設備・備蓄品等の計画的整備と教職員・学生生徒への防災意識の啓蒙
 - 2) 自治体と協働での防災訓練実施と避難所運営、大学・中高・法人本部合同防災訓練の実施
- 2 地域活性化支援による地域貢献
 - 1) 地域（自治体・地域団体等）による各種協議会等へ積極的に参加し、連携を加速させて、地域の要請に応じて各学校部門とのコーディネートを進めるなど産官学民連携を推進